

平成 17 年 9 月 15 日

## 情報セキュリティ政策会議第 2 回会合

### 第 1 次情報セキュリティ基本計画（仮称）の骨子と方向性（案）に関する所見

拓殖大学海外事情研究所 客員教授 江畑謙介

基本的内容と方向性については、セキュリティ・センターのご努力により第 1 次基本計画としてほぼ所期の必要とされる内容が盛り込まれたと考えられる。センター事務局の労力を多とするが、なお、基本的には次の 3 点に留意されることが望ましい。

- 1) 情報インフラに対する攻撃には、ソフトウェア（プログラムやいわゆるハッキング）的なものだけでなく、物理的（直接的破壊ないしは電磁波による破壊）な攻撃もあり、現実にはむしろその方が実施しやすく、また影響（破壊力）も大きい。
- 2) ネットワークは国内だけではなく全世界と結びついている現実への認識。これが高いセキュリティ水準の確保という意識に繋がる。この認識は「文化（カルチャー）」としての問題であり、この分野での政府主導による一層の努力が望まれる。
- 3) 全世界と結びついているということは、24 時間 365 日ということであり、ネットワークの保全に従事する要員には 24 時間 365 日体制が求められる。このため要員の要請確保だけではなく、一般に、一箇所一時期を捉えた場合、それほど多くの人間で対応するものではないため、長時間にわたる孤独な仕事に対しての精神的ケア体制を整えておく必要がある。

（了）